

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	孔夫子教授一斑（承前）：論説
Author(s)	内田，周平
Citation	龍南會雜誌， 3 3： 1 - 3
Issue date	1895-01-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4508
Right	

龍南會雜談第參拾參號

論 說

孔夫子教授一斑 (承前)

教授 内田周平

夫子の平日人に教ゆる者は文行忠信を主とし雅に言ふ所は詩書執禮あると前已に之を述べたり然れどもその獨り道理を研究するに於ては亦敢て自ら卑近に安んぜざるあり又人を引きて高處に進まざるの意あり此れろの易を贊するを見て知るべし子曰加我數年、五十以學易、可無大過矣、と朱子之を注して曰く學易、則明乎吉凶消長之理、進退存亡之道、故可以無大過、蓋聖人深見易道之無窮、而言此以教人、使知_下其不可不學而又不可以易而學也、とこの吉凶消長は天道を以て言ひ進退存亡は人事を以て言ふ聖人の易を作りしは天道に即さて以て人事を決するに過ぎず然れどもろの蘊する所の理に至りては甚だ深遠なり故に聖人の謙辭する所以の者は蓋し亦眞易道の窮りなきを見て俛焉孳々の意あり又因て以て人に教へ人を乏て易道の以て學ばざるべからざるを知らしめしかり易の占辭、吉凶悔吝の外は於て屢ば無咎を以て之を言ふ大要只人の過ちあからんことを欲す人々をして皆易を學ぶことを知らしむれば則ち皆以て大過をかるべし此れ夫子人に教ゆるの深意あり朱子又之を講じて曰く易は須らく錯綜すべし天下甚麼の事を看るに一として此れよも出でざるはなし善惡是非得失以て屈伸消長盛衰に至るまで是れ甚事と看るに都て此れより出づ伏羲以前は如何に吉凶禍福を占考せしを知らず伏羲に至り陰陽兩箇を以て卦を畫して以て人に示し人

をして此れに於て吉凶禍福を占考せしめたり一畫を陽となし二畫を陰となし一畫を奇となし二畫を耦と爲し遂に八卦と爲し又錯綜して六十四卦と爲す凡る三百八十四爻文王又之れが彖象を爲くりにて其義を釋す陰陽消長盛衰伸屈の理は非るはなし聖人の學ぶ所以の者は此れを學ぶのものと又曰く他經の如きは先づ其事に因りて方に其文あり書に堯舜禹成湯伊尹武王周公の事を言ふ因て許多の事業あり方に那裡に説き到るあり若し那事なければ亦那理は説き到らず易は則ち是れ箇の空底の物事未だ是事あらず豫め先づ是理を説く故に許多の道理を包括し得盡す看よ人甚事を做すも皆撞著するをと然をとも已上朱子の言は頼りて以て論語に於ける夫子が贊易の語を解したるに止まるのみ若し夫れ夫子易理を研究するの深き著はれて廣大精微の理論と爲る者は繫辭傳文言傳等あり此れは則ち平日門人と語る者に非ずして而して實に萬世に垂せし者あり眞西山嘗て夫子の進退の易理と相合ふことを言へり左に錄えて以て參考に資せん曰く

聖人易を作る陰陽消息の理を推明するに過ぎざるのみ陽長すれば則ち陰消し陰長すれば則ち陽消す一消一長は天の理なり人にして而して易を學べば即ち吉凶消長の理を知らん陰陽を以て對言すれば則ち陽を善と爲ま吉と爲し陰を惡と爲し凶と爲す獨り陽を言へば則ち陽に自ら吉あり凶あり蓋し陽中を得れば則ち吉あり中あらざれば則ち凶なり陰も亦然り天理を以て言へば則ち消息盈虛と爲り人事を以て言へば則ち存亡進退と爲る蓋し消すれば則ち虚し長すれば則ち盈つ日中すれば則ち昃き月盈つれば則ち虧き暑極まれば則ち寒く寒極まれば則ち暑きが如し此れ天道の已む能はざる所なり人能く之を躰すれば則ち當に進むべくして而して進み當に退くべくして而して退き時存すべくして而して存し當に亡すべくして而して亡す此の如くなれば則ち人道得て而して天と

合す故に孔子以て進むべければ則ち進み以て退くべければ則ち退き以て久ふすべければ則ち久ふ
之[○]以て速にすべければ則ち速にす之を用ゆまば則ち行ひ之を舍つまば則ち藏す此れ孔子の身全体
皆易なり

交渉は衝突

巴 城 生

吾人の平常關係すべきとに於て、繁多なること自他交渉に如くものあり。或は親子の關係と云ひ、或は兄弟夫婦の關係と云ひ、將又他人と自己との關係と云ひ、悉く皆自他の交渉にあらざるはあらず。吾人は深山幽谷に隱遁せる仙僧にあらざるよりは、必ず此交渉を有し、絶たんと欲して絶つ能はざる、又切らんと欲して切る能はざる羈絆たり。

社會に現出し來る爭亂、紛紜、戰鬪、嫉妬、讒謗等總て常經に外れたるとは、畢竟自他交渉の圓滿ならざるより結果す。世に所謂罪惡過失と稱するものは、實は自他交渉の衝突に外ならず。

親子、夫婦の交渉の如きは、親密にして和睦せる情愛、其間に成立せるを以て、其交渉も亦た至て完きを待れども、稍血縁を遠くし、利害を異にするものに至りては、交渉も願はしく繼らず、必ずや其間多少の行違あり。『兄弟喧嘩』ある語は人生の薄情を警告せる標語にあらずや。兄弟の間、既に爭亂を生ずる傾向あり、況や他人同士の間柄あるに於てをや。或は嫉妬し、或は反目し、或は排擠するに至る、亦た止むを得ざる所。

吾人は人類として、種々の目的を有せれども、之を大別して二とをすを得。第一は獨立の自己とて、世界に生存を維持することにして、第二は社會の分子とて、世界に生存を維持することなり。而し